

Dスタイルの授業（1単位時間の例）

① いなさの学び

② ガイダンス（見通し）

● 学習計画表（学びの手引き）

全員が必ず取り組む学習と自分で決めて自由に取り組む学習を設定し、学習内容も選択できるようにします。

③ 自己選択・自己決定

● 教科や単元の特性からのタイプデザイン（A～D）

初期段階では子どもに委ねるものを明確に宣言する。

「学習順序・学習方法（何を使う）」「学習課題・学習内容」「環境（だれと学ぶ）」「時間（部分・単位・単元）」

④ 個別最適な学び

● 環境調整

「ワークシート」「掲示物・具体物」「チャレンジ問題」「参考URLやキュービナWBの配信」**本時は見守り支援**

● チェックポイント

教師担当が望ましいが、担任1人ではおのずと限界→**学年チーム**で！理解進度の早い**子どもをミニ先生**に！

（子どもが教えることで学び深め、自己有用感を高め、学級風土を創る。）

● 活動中の実態把握

ネームカードやスプレッドシート等の共有ファイルを使い、一人一人の進捗状況を可視化し、教師とミニ先生はヘルプを出している子を中心に支援！

⑤a シャベリ場（本時に必要か都度判断）

⑤b 一斉指導（深化・修正 教師の話は短く）

⑥ ふりかえり（プロアクティブ）

● なりたい学びの姿

振り返りカードや共有ファイルを使い、本時に「なりたい学びの姿」が実現できたか振り返り、次へつなげる。

⑦ 価値付け（教科の見方・考え方）

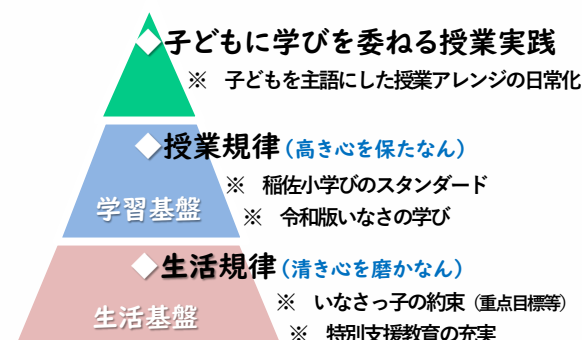
「なりたい学びの姿」について価値付ける。併せて教科の見方・考え方を学習経験として押さえ、今後に生かす。

※ 記載は、授業デザインの1例です。子どもの実態、教科・単元の内容、教師の思いやスキル等によって柔軟にアレンジしてみてください。



【研究主題】ねばり強く自ら学ぶ子の育成

～安定した学習の基盤をもとに「子どもの学びを委ねる授業」の実践を通して～



子どもに何を委ねるのか

～選択と決定の機会を保障し、自立して学ぶ意義を子どもと共有～

学習方法

	教師	子ども
教師	内容も方法も教師が示す（一斉指導型） 「読解」「意味・意義」 A	方法を子どもに委ねる（順序選択等） B
子ども	内容を子どもに委ねる（課題選択等） 「社会」「キャリア」 C	内容も方法も子どもに委ねる（自由進度等） 「言語事項」「算数」 D

※B、C、D型及び時間や空間等を子どもが選択・決定できる授業を、まずは全体の1割以上日常的に実践することをめざす。（単元・単位・部分）

稲佐の特色ある学びを活かして

～「令和版いなさの学び」と「シャベリ場」で協働的な学びへつなぐ～

いなさの学び	シャベリ場
①全員挙手 「始めます。はい！」 ②三人発表 A「前の時間は～」 B「その学習で～」 C「今日は～」 ③めあてを引き出す	①受け止める（聴く） ・聴くことは優しさ 見る、うなずく、言葉 ②伝える（話す） ・相手意識 見る、真剣に、結論 短く、平等に ③深める（学ぶ） 加除、修正、共通 相違、根拠

子どもに 学びを委ねる

～「教わる」から「学びとる」へ授業観の転換～

稲佐小

1人1台端末を日常的に活用しながら、自己選択・自己決定できる場面を段階的に増やし、自ら学びを調整できる「自立した学習者（学びに向かう力）」を育てる。



「学びを委ねる」キーワード

「自己選択・自己決定」→学びの責任の自覚

「ふりかえり」→なりたい学びの姿の追求

「教育データ利活用」→指導・支援の根拠

「見える化」→他者の関わり方の根拠

「教科の見方・考え方」→ぶれないビジョン

「学習の個性化」→学びの楽しみ

Qubena 3分クッキング

AI型ドリル教材を日々の授業にリンク



可視化できる履歴を有効活用

～ Qubenaマネージャーでできること ～

リアルタイム

「遅れている生徒はいないかな」
「解答を読んでいないかな」
「何度も消してるぞ(困っているかも)」
「×を押して、誤答を確認しよう」

↓
◆スクショを映し全体で共有できます。

期間ごと

「Aの今月解いた問題数は●問」
「多い順に並び変えてみよう」
「ダウンロードでエクセルにしよう」

↓
◆各教科のWB、ホーム、5分間復習の時間、解答数、正答率が表になる。

単元ごと

「この節のクラス平均はBだな」
「問題ごとの正答率をソートしよう」

↓
◆正答率が低い問題を抽出して、重点的に指導できます。

◆ダウンロードでエクセルにし、全員の問題ごとの習熟度もわかります。

ワークブックごと

◆生徒軸は、AIが出題した『確認パート』と『指定パート』が色別で表示されます。×のクリックで誤答が見られます。
◆問題軸は、正答率が低い問題を抽出できるほか、誤答した児童名も確認できます。問題名のクリックで画面いっぱい問題が表示されます。

01 家庭学習（WB配信問題）

「復習」として、その日に学習した問題を中心に出题。AIの自動出題がONの場合は、長時間になる児童もいるので要注意。
「予習」として、次の日の授業で扱う問題を1～2問出題し、どの程度自力で対応できるか見取ります。問題が解けない児童や時間がかかる児童が多数いる場合は、授業での手立てが必要です。

【設定例】適切な問題を自動出題する→ON(終わらない児童に留意)
超過時に強制終了する→OFF/出題パート→指定パートのみ/設定・ヒント説明→表示あり

02 授業デザインの決定

「復習」の課題に対するデータを確認することで、前時の定着度を知り、前時のふりかえりがどの程度必要かを判断。

「予習」の課題に対するデータを確認することで、どの程度の支援が必要となるか、自由進度学習で重点的に支援する児童、理解が進んでおり友達のサポートに回れる児童を把握し、授業をデザインします。

03 レディネス確認

授業の最初に児童の理解度を確認するために行います。（01 家庭学習で取り組まさせていれば、この時間は不要となります。）全体の傾向をつかむだけならGoogleフォームの方が有効かも。これらの結果を踏まえて、指導の個別化が図られるよう授業をデザインしましょう。

04 定着小テスト

授業の終末に学習での定着度を診断します。問題数は1問か2問。理解が進んでいる児童のための追加問題を設定することも忘れずに。授業の展開部分で演習問題や実験の確認として取り組ませるなど、理解度の確認にも活用してください。

【設定例】自動出題する→OFF、強制終了する→ON、出題パート→指定パートのみ、設定・ヒント説明→表示なし

05 家庭学習 AI 自学

①ホームで問題を選択②ワークブック配信問題③5分間復習（「通常モード」と「計画モード」、「学習履歴へ」）の中から、自分で学びを調整できる児童を育成しましょう。データベースを蓄積し、より最適なQubenaにするために、目標の問題数を設定させましょう。

※保護者と長崎市が費用を負担しています。全教科使用させましょう。
(クラスごとの活用状況を毎月お知らせします。未活用領域を再確認)

Qubena 学習eポータル

文科省のCBT[MEXCBT] へのゲートウェイ



さらなるステップアップを目指す子どもたちも、しっかりと支援をお願いします。

01 MEXCBTテストを追加

Qubenaマネージャーで[MEXCBT]を選択し、「テスト」タブを開きます。「テストを追加」ボタンから検索画面を開き、条件を選択して追加したい問題にチェックを入れます。「選択した問題を確認」ボタン、「追加する」ボタンを選択することで、テストの追加は完了です。

02 MEXCBTテストを配信

Qubenaマネージャーで[MEXCBT]を選択し、「テスト」タブを開きます。追加したテストの中から、配信したいテストを選択し、「新しく配信する」ボタンを選択します。配信先、配信期間を設定し、[配信する]ボタンを選択することで、テストの配信は完了です。

03 MEXCBTテストの結果

Qubenaマネージャーで[MEXCBT]を選択し、「クラス」タブを開き、結果を確認する「クラス」、「テスト」を選択します。緑色の子どもの名前を選択すると、一番最近に解いたテストの結果詳細が見れます。

MEXCBTにはどんな問題があるの？

- 全国学力・学習状況調査（平成19～令和5年度）
- 地方自治体等の学力調査等の問題（例）
 - ・千葉県作成「ちばっ子チャレンジ100」（小1～小6）
 - ・さいたま市作成「基礎学力定着プログラム」（小1～中3）
 - ・幸手市作成「パワーアップシート」「確認テスト」（小1～中2）
 - ・北海道作成「ほっかいどうチャレンジテスト」（小1～中3）
- ※社会（岩手5年、佐賀6年）理科（千葉3～6年、岩手5年、佐賀6年）
- その他
 - ・PISA（国際学力調査）の公開問題
 - ・全国学力・学習状況調査を題材とした動画問題（小6理科）
 - ・実用英語技能検定 ・情報モラル学習問題 ・日本漢字能力検定